



J. S. Bach

Aufführung in japanischer Sprache



Weihnachts-Oratorium BWV 248/I, II, III

Gott ist mein König BWV 71

創立50周年記念公演 [2]

BACH-CHOR, TOKYO Das 50-jährige Jubiläum [2] 107. Regulärkonzert

東京バッハ合唱団

第107回定期演奏会

J. S. バッハ [日本語演奏]

クリスマス・オラトリオ

第I・II・III部

カンタータ第71番《主はわが君》



2012年 **11** 月 **9** 日 (金) 19:00 開演
Freitag, 9. November 2012, 19:00 Uhr

杉並公会堂

Suginami Koukaidou Hall

光野孝子 (ソプラノ) 佐々木まり子 (アルト) 鏡 貴之 (テノール) 新見準平 (バス)

草間美也子 (オルガン) 東京カンタータ室内管弦楽団 (オーケストラ)

大村恵美子 (指揮/訳詞)

Mitsuno Takako, Sopran Sasaki Mariko, Alt Kagami Takayuki, Tenor Niimi Junpei, Baß

Kusama Miyako, Orgel Tokyo Cantata Chamber Orchestra Ohmura Emiko, Leitung/Übersetzung



[入場料] 前売り 3500 円, 当日 4000 円 (全席自由席) Eintrittspreis: ¥3500 Vorverkauf, ¥4000 Tageskarte

[チケット取扱い] 東京バッハ合唱団事務局 または チケットぴあ Tel: 0570-02-9999 (Pコード 170-543) [http //pia.jp/t](http://pia.jp/t)

[チケットお申込み/お問合せ] 合唱団事務局 Tel: 03-3290-5731 E-mail: office@bachchor-tokyo.jp

Fax: 03-3290-5732 (裏面に Fax 申込み用紙) [http //bachchor-tokyo.jp](http://bachchor-tokyo.jp)



[主催] 東京バッハ合唱団
BACH-CHOR, TOKYO

[後援] ドイツ連邦共和国大使館
Botschaft der Bundesrepublik Deutschland Tokyo





●光野孝子(ソプラノ)

島根大学教育学部特別音楽課程卒業。二期会オペラスタジオ・マスタークラス修了(優秀賞受賞)。1997 年文化庁芸術インターンシップ研修員。オペラでの多彩な活動に加え、バッハの教会カンタータと「マタイ受難曲」「クリスマス・オラトリオ」「ロ短調ミサ曲」などで、またモーツァルト、ヘンデルなどの多くの宗教作品でソリストを務めている。2006 年ライブツィヒ・バッハフェスティバルにて、樋口隆一氏指揮のもとカンタータ音楽礼拝(ニコライ教会)にソリストとして出演。1997 年と 2009 年には東京バッハ合唱団ドイツ公演にソリストとして同行。現在、国立国会図書館うたう会、霞ヶ関男声合唱団の指揮者、東京バッハ合唱団、明治学院バッハアカデミーなどのヴォイストレーナーも務めている。二期会会員。

●鏡 貴之(テノール)

岩手大学教育学部芸術文化課程卒業。東京芸術大学大学院修士課程修了。声楽を佐々木まり子、佐々木正利、多田羅迪夫の各氏に師事。主にオラトリオ、宗教曲のソリストとして活動中。J.S.バッハの作品では多数のソロを務め、活動の中心になっている。2007 年東京バッハ合唱団第 100 回記念定期「マタイ受難曲」公演ではエヴァンゲリストとして好評を博し、以降も当合唱団定期にはレギュラー出演。オペラの分野でも活躍。これまでにヴィンシャーマン、H-M・シュナイト、鈴木雅明、マウラーなどの著名な指揮者と共演して高い評価を得る。日本声楽発声学会会員。東京バッハ合唱団、東京ムジーククライス合唱団各ヴォイストレーナー、バッハコレギウムジャパン声楽メンバー。



●佐々木まり子(アルト)

東京芸術大学声楽科卒業、同大学院修士課程独唱科修了。伊藤亘行、森明彦の各氏に師事。学部在学中より小林道夫氏指導のもと、芸大バッハカンタータクラブで多くのオラトリオやカンタータのアルトソロを歌う。1980 年デットモルト北西ドイツ音楽大学に留学、ヘルムート・クレッチマー氏に師事。教会カンタータをはじめ「クリスマス・オラトリオ」「マタイ受難曲」「ヨハネ受難曲」「ロ短調ミサ曲」などのバッハ作品のほか、他のオラトリオ作品のソリストとして各地で演奏活動を行っている。1993 年ヴィンシャーマン指揮ドイツ・バッハソリスデンの「マタイ受難曲」ではソリストとして国内各地に同行。現在岩手大学、東北大学各合唱団ヴォイスレーナー。女声合唱団グレイセスもりおか、アンサンブル・コンフォーコ指揮者。

●新見準平(バリトン)

1985 年福岡県出身。東京芸術大学音楽学部声楽科、同大学院音楽研究科修士課程独唱専攻修了。福島明也、多田羅迪夫、原田茂生、宮本修の各氏に師事。バッハからオルフに至る多くの宗教作品でソリストを務め、オペラではコミカルな役柄、シリアルな役柄など、様々なバリトンの諸役を演じている。鈴木雅明、現田茂夫、松尾葉子、H-M・シュナイト等のもと、東京ニューシティ管弦楽団、東京ユニバーサルフィル、芸大フィルハーモニア等と共演。東京ムジーククライス、オルフ祝祭合唱団、館林第九合唱団、中央区第九の会などの合唱指揮。芸大バッハカンタータクラブ、バッハコレギウムジャパン声楽メンバー、芸大音楽研究所センター教育研究助手、洗足学園音楽大学補助演奏員。



バッハ演奏、なぜ日本語か？

東京バッハ合唱団は、1962 年設立いらい半世紀にわたり、わが国におけるバッハ演奏のパイオニアとして、教会カンタータを中心に多様なジャンルのバッハ合唱曲を紹介しつづけていますが、定期公演においては、われわれの母語である“日本語”による上演を原則としてきました。

なぜ日本語か？ それは私たちが日本語で考え、思い、感じているからです。言語の壁は、心のもっとも奥深いところでなされる芸術的共感を阻(はば)んでいますが、訳詞演奏は、精神そのものである母語によってその壁を超えてみようとする一つの試みにほかなりません。

バッハ音楽の精神的背景には、母語をとおして神と直接向き合おうとするルターの思想が色濃く反映されています。またバッハにいたって西洋音楽は、個々のテキストの意味を形象化し、あるいはテキストの背後の理念や情感に音の形を与えることにより、ラテン語やドイツ語といった特定の言語の制約を超越することに成功しました。ですからバッハ音楽の中にあつては、どの言語圏の人々も、安心して自分たちの母語に身をゆだねることができるのです。東京バッハ合唱団の日本語による演奏が、バッハ音楽の普遍性の証しとなることを確信しています。

東京バッハ合唱団創立 50 周年記念「バッハ 4 大合唱作品[日本語]連続演奏」継続中

終了 ■《ロ短調ミサ曲》(2011/12/3) 当公演 ■《クリスマス・オラトリオ》I-III、カンタータ第 71 番《主はわが君》(2012/11/9)

次回公演 ■《マタイ受難曲》(2013/3/30, 14:00, 紀尾井ホール)

鏡貴之(T 福音史家)、光野孝子(S)、佐々木まり子(A)、鳥海寮(T アリア)、渡辺明(B イエス) ほか
東京カンタータ室内管弦楽団(Orch)、草間美也子(Org)、大村恵美子(指揮/訳詞)

■《クリスマス・オラトリオ》IV-VI、カンタータ第 76 番《主の栄光を天は語り》(2013/年末) ■《ヨハネ受難曲》(2014/春)

<合唱参加者募集：各パート若干名、練習日/会場>

◇土曜日 15:30-17:30、世田谷中央教会(世田谷区桜新町 1-14-22、東急田園都市線「桜新町」駅から 4 分)

※[土曜会場は 8 月より右記に変更] 日本キリスト教団・荻窪教会(杉並区荻窪 4-2-10、「荻窪」駅南口から 8 分)

◇月曜日 18:30-20:30、目白聖公会(新宿区下落合 3-19-4、「目白」駅から 5 分)

【チケット申込み/問合せ/資料請求】

東京バッハ合唱団事務局

Tel: 03-3290-5731 Fax: 03-3290-5732

E-mail: office@bachchor-tokyo.jp

http://bachchor-tokyo.jp/

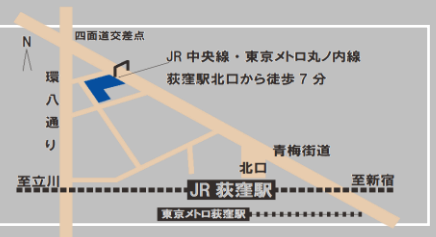
■杉並公会堂への交通

JR 中央線/東京メトロ丸の内線

荻窪駅北口から

青梅街道に沿って徒歩 7 分

[会場]Tel: 03-3220-0401



【チケット申込み】03-3290-5732 (Fax 専用)

第 107 回定期演奏会《クリスマス・オラトリオ》I-III、カンタータ BWV71 (2012/11/9, 杉並公会堂) のチケットを申し込みます

前売り券: 3500 円(全席自由席)

枚数:	お名前:	Tel:	Mail:
お送り先ご住所:(〒)			

▲お支払い方法: チケットに郵便振替用紙を同封いたしますので、折り返し、枚数分をご近所の郵便局にてお振込みください。



Botschaft
der Bundesrepublik Deutschland
Tokyo

Grußwort

anlässlich des 50-jährigen Jubiläumskonzerts
des Bach-Chors Tokyo

Es freut mich außerordentlich, dass der Bach-Chor Tokyo in diesem Jahr sein 50-jähriges Jubiläum feiert. Der traditionsreiche Chor beschäftigt sich seit seiner Gründung im Jahre 1962 ausschließlich mit den Werken J.S. Bachs. Er blickt auf mehr als 200 Konzerte und zahlreiche Deutschlandreisen zurück. Seine Konzerte genießen breite Anerkennung und nehmen einen festen Platz im japanischen Konzertkalender ein.

Besonders hervorzuheben ist das große Engagement und die langjährige Arbeit der Dirigentin Emiko Ohmura, die den Bach-Chor Tokyo 1962 ins Leben gerufen und eine Vielzahl von Bachs Werken ins Japanische übertragen hat. Die Konzerte des Bach-Chors sind ein wichtiger Beitrag zur breiten Palette unseres musikalischen Austausches. Ich bin mir sicher, dass wir bei der weiteren Entwicklung der bereits heute schon engen musikalischen Bindungen zwischen unseren beiden Völkern auf dieses Fundament bauen können.

Das Jubiläumskonzert steht unter der Schirmherrschaft der Deutschen Botschaft, was uns mit Freude und Stolz erfüllt. Meine Anerkennung und mein Dank gilt den Künstlern und den Organisatoren dieses Jubiläumskonzerts, die mit viel Enthusiasmus und Engagement eine besondere musikalische Leistung zeigen. Allen Zuhörern wünsche ich einen großartigen Musikgenuss und den Musikern und Organisatoren viel Erfolg für das Konzert.

Pit Heltmann
Botschaftsrat
Leiter der Abteilung für Kultur und Öffentlichkeitsarbeit
Deutsche Botschaft Tokyo

ご挨拶

東京バッハ合唱団

創立 50 周年記念公演に寄せて

この度、東京バッハ合唱団が創立 50 周年を迎えられますことを大変うれしく思います。長い伝統を誇る同合唱団は、1962 年の創立以来、J. S. バッハの作品に専念し、200 回以上のコンサートと数多くのドイツ公演を開催されました。そのコンサートは幅広い評価を得ており、日本の演奏界において確固たる位置を占めております。

特筆すべきは、東京バッハ合唱団を 1962 年に創設され、バッハの作品を数多く日本語訳された指揮者・大村恵美子様 の多年にわたる多大なご功績です。同合唱団のコンサートは、音楽分野における日独交流の多彩さを支える大切な支柱であります。日独両国間の音楽の絆はすでに密接なものでありますが、これを礎として、今後なお一層緊密なものになると確信しております。

この度の創立 50 周年記念コンサートは、ドイツ連邦共和国大使館後援のもとで開催されますが、このことを喜ばしくかつ誇りに思います。本公演で多くの熱意とご尽力をもって格別の音楽を披露される、出演の皆様と主催者の方々に賞賛と感謝の言葉を捧げます。ご来場の皆様には、素晴らしい音楽を満喫されますことを願いますとともに、演奏者と主催者の皆様にはコンサートの大いなるご成功をお祈りしております。

ドイツ連邦共和国大使館

広報文化部長

ピット・ヘルトマン